

令和8年10月2日

保護者 様

丹波篠山市立大山小学校

校長 大江 健

令和8年度 丹波篠山市立大山学校 学習や生活に関する学力向上プラン

本校は、全国学力・学習状況調査（6年生）及び丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（5年生）、生活習慣状況調査（3～6年生）の結果をもとに授業改善等を行うため、「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しました。学力の定着状況等についてご理解いただき、子どもたちの学習や生活習慣の改善、さらに学校の教育活動へのご支援をお願いいたします。

【調査結果の概要】

全体的な状況

6年生対象の全国学力・学習状況調査（国・算）、5年生対象の丹波篠山市学力状況調査（国・算）では、両学年とも教科や分野によって目標値及び全国平均を上回る結果と下回る結果が出ており、得意な分野と不得意な分野の差が顕著に見られました。また、同じ分野内でも、問題の内容によって差が見られるものもありました。

国語科

6年生…「書くこと」の内容として、「文章を読んで考えたことを自分の経験と結びつけてまとめて書くこと」の問題が高い正答率になっています。また、文章を書く上での「構成メモ」の工夫について適切なものを選択する問題も高い正答率でした。しかし、『『苦手』と『嫌い』』（辻村深月）という題名の文章から、読み取るための「図式メモ」の解釈として「筆者が経験したこと」を「自分の経験したこと」と読み間違え、だれの経験について整理したものかを正確に捉えられないという誤答が多くありました。他に、適切な漢字の想起ができなかったり、送り仮名に自信がなかったりしたため無回答が目立ち、既習漢字の定着において課題が見られました。

5年生…第4学年に配当されている漢字を正しく読む問題が高い正答率になっています。また、行動を表す語彙を選択する問題も高い正答率でした。一方で、読み取った情報を整理し、指定された文章の形で表す力については課題が見られました。また、話の内容をかたまりとして捉える力（段落の内容をまとめる力）も同様で、情報を読み取れたとしても、それぞれの部分の内容を要約しながら読み取るなど「読むこと」について課題が見られました。

算数科

6年生…整数が書かれた3枚のカードを並べ替え最も大きい数を書く「数と計算」領域で高い正答率となっています。帯グラフの割合を読み取る選択問題でも高い正答率でした。しかし、2次元の表から条件に合う数を読み取る問題や1cm³の立方体を36個使ってできる図形の正確な体積を求めることなど「データの活用」や「図形」領域において課題が見られました。

5年生…ゴムひもが伸びる長さについて、その割合を考えてよく伸びるゴムを選択する問題や、角度を求める正しい式を選択する問題についてよく理解し、高い正答率になっています。しかし、2つの地域の気温が表された折れ線グラフの読み取り問題や平行四辺形の作図の正しい手順について課題が見られました。

学習生活習慣について

どの学年においても、項目によって全国平均を上回る結果と下回る結果が出ています。

6年生…「先生のささえ」「成功体験と自信」「発信力」の項目において数値が高く、周りの人の支えを感じ、何事にも前向きに自分の意見を自由に発信できる風土が築けている集団と言えます。「対話・話し合い」については数値が低く、今後一層の授業における学び合い活動が望まれます。

5年生…「社会参画」「学習意欲」「いじめのサイン」の項目において数値が高く、教師や友だちとの関係が安定しており、学びに対してポジティブな面が見られます。一方、「他者からの評価」は平均を下回り、周りから認められている、褒められているという実感が少なく自己肯定感の低さがうかがえます。

4年生…「対人ストレス」「家族のささえ」「先生のささえ」の項目で良好な回答でした。しかし、「成功体験の自信」や「充実感と向上心」は平均を下回り、自ら自信を持って進もうとするエネルギーが不足している傾向が見られます。

3年生…「他者からの評価」「学習意欲」「生活習慣」の項目において良好な回答が見られた一方「学級の規範意識」は否定的な回答が多くありました。友だちの言動や行動に流され、決められたルールを守ったりマナーに気をつけたりすることを苦手としている児童が多いことがうかがえます。

課題と対応

結果をもとに、「国語科」「算数科」においてこれまでの学力向上の取組を真摯に見つめ直し、今後、学校として「授業の工夫」・「基礎的内容の習得」等を課題として一層の取組を進めていきたいと考えています。そのため、結果の分析を通して『子どもたちに必要な力は何か』、その力をつけるために『どのように授業を改善していけばいいのか』という授業改善の視点を検討しました。

国語科

文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉える力、

伝えたいことの根拠を明確にして書くことができる力の育成

- ・書く際の約束を盛り込んだ文章の書き方を学ぶ機会を増やします。
- ・授業では、対話の時間を設定し、目的意識を持って話し合う学習に取り組んでいきます。
- ・授業後のふり返りでは、めあてに対する視点を示した上で話したり書いたりできるようにします。
- ・学校行事等あらゆる機会を通して作文指導を行い、書くことへの習慣化に取り組んでいきます。
- ・学校、学級内の図書環境を整え、気軽に本を手に取り読書をする習慣を育てていきます。
- ・自主学习等を通して、調べたことをまとめたり資料をつくったりする取組を続けていきます。

算数科

数学的な用語や表現について知識の習得と活用を交互に繰り返し、

自分の考えを自分の言葉で書いたり発表したりする力の育成

- ・自分の考えを書いたり発表したりする場面を意図的に授業の中に取り入れていきます。
- ・授業では、友だちと自分の考えを交流したり比較したりする対話の活動を取り入れていきます。
- ・基礎的な計算力を身につけられるように計算スキルの向上を目指していきます。
- ・関係図や数直線、作図など作業的な活動時間を十分確保した授業を行います。

学習・生活習慣

これまで同様、子どもたちの学習や生活習慣が崩れないように家庭との連携を密に図っていきます。また、今後も対話を取り入れた学習形態や目的意識を持った課題設定の取組も含め、クラブ活動や総合的な学習の時間などの様々な学習において、家庭や地域の方と関わりながら、互いを認め合い、子どもたちが自信を持てるような機会を設けていきます。

【保護者の皆様へのお願い】

本プランを提案したねらいは、子どもたちの実態や課題を明確にし、課題解決に向けて学校と家庭が連携して学力の向上に取り組むことにあります。

今後も学校と家庭が連携し、子どもたちのさらなる成長を見守っていきたいと考えております。

ご家庭におきましては、日々の学習等でお子様の励みとなる声かけを引き続きお願いいたします。